

全国どぶろく研究大会 淡麗の部

兵庫県新温泉町で今月12日開かれた「第10回全国どぶろく研究大会」コンテストの淡麗の部で、由利本荘市の秋田ニューバイオファーム（鈴木幸夫社長）が出品した「鳥海恵（ちょうかいめぐみ）」が本県で唯一、優秀賞に選ばれ

た。鳥海恵は同社の定番商品。県のオリジナル麴（こうじ）「あめこうじ」を使って味を改良し、3年ぶりの受賞となった。県内では他に、同部門で白山酒造（男鹿市）の「どぶろく寒風山」が入賞を果たした。

鳥海恵

本県
唯一

優秀賞に

由利本荘・秋田ニューバイオファーム

研究大会は、どぶろく特区を

活用した都市と農山漁村の交流を図り、製造技術の向上を目指そうと、開催地の自治体などをつくる実行委員会が毎年開いている。由利本荘市は2009年3月、どぶろく特区に認定され

ている。

コンテストは2部門で、淡麗に57、濃芳醇（ほんじゅん）に59の計116銘柄が出品。香りや味の良さ、後味、粒感などの審査項目で出来栄を競った。

鳥海恵は原料に市内産米「ひ



全国どぶろく研究大会コンテスト・淡麗の部で優秀賞に輝いた「鳥海恵」と、トロフィーを手にする製造担当の工藤さん

とめぼれ」と鳥海山麓の水を用い、精米歩合は吟醸酒と同じ60%。甘みが強く出る「あめこうじ」を初めて使い、アルコール度数も従来より2度ほど高い12度とした。すっきりとした甘みを残し、味に深みが出たという。

製造担当の工藤由佳さん(51)は「試行錯誤の連続で思い悩むことも多かったが、細心の注意を払って仕込んだどぶろくが優秀賞を受賞できてうれしい」と喜んだ。

北秋田市で開かれた前回大会では、地元開催ながら県勢は入賞すらできず、他県のレベルが高まっていることに気付かされた。それだけに工藤さんは「今後も味に磨きを掛け、本県のどぶろくを盛り上げていきたい」と話した。

両部門とも最優秀賞1点、優秀賞3点、入賞5点。最優秀は、淡麗が高知県香南市の「香南のいぶき」、濃芳醇が京都府福知山市の「どぶろく」鬼ババアが選ばれた。

(小川頭)